# **Market Flash**

発表日:2019 年4月 25 日(木)

# 連休前に重要な情報発信はないだろう

~日銀は現状維持を選択へ~

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部 主任エコノミスト 藤代 宏一(Tel:03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き 12 ヶ月は 23000 近傍で推移しよう。
- ・USD/JPY は米利上げ打ち止めが視野に入る中、先行き 12 ヶ月で 105 へと下落しよう。
- ・日銀は現在の YCC を 2020 年春頃まで維持するだろう。
- ・FED は利上げを停止し、2019 年は様子見を続けるだろう。

## <#金融政策決定会合 #独 I f o 下げ止まらず>

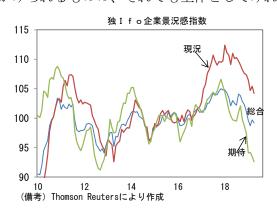
・日銀は本日の金融政策決定会合で金融政策の現状維持を決定する見込み。政策金利は据え置き、フォワードガイダンスも維持するとみられる。貸出支援基金を通じたマイナス金利貸出、フォワードガイダンスの期間延長といった選択肢が完全に排除された訳ではないが、金融市場が落ち着いている現状、このタイミングで動く必要性に乏しい。10連休前ということもあり、新たな情報発信に慎重だろう(詳細は金融政策決定会合後に発行予定の午後版レポートを参照ください)。

#### 【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標】

・日本株は小幅高で寄り付いた後、USD/JPY下落を伴って小幅ながら水準を切り下げている(10:00)。 なお、10連休前のポジション調整に伴う売りが膨らんでいる様子はない。

#### 【その他海外経済指標等】

・4月独Ifo企業景況感指数は99.2~と3月から0.5pt悪化。関連指標の製造業PMIが4月に反発したことでこの指標も改善が期待されたが、結果は現況(105.4→104.2)と期待(93.5→92.6)がともに冴えず、1-2月平均と概ね同じ水準に留まった。自動車の排ガス不正問題や米欧通商交渉に対する不安感などを背景に製造業の景況感が悪化したことが背景。サービス業、小売業、建設業といった内需項目には底入れ感がみられるものの、それでも全体としてみれば下げ止まっていない。



## 【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は小幅下落。この日発表された決算はまずまずも、主要指数が最高値に接近する中で利益確定売り優勢。WTI原油は65.89 $^{\text{F}}_{\text{\tiny L}}$ ( $\triangle$ 0.41 $^{\text{F}}_{\text{\tiny L}}$ )。
- ・前日のG10通貨はAUDを中心に資源国通貨が下落するなか、USDが全面高。豪CPIの弱い結果を受けてAUDとNZDが売られたほか、原油価格反落を受けてNOKが軟調。その他ではBOCの声明文から利上げバイアスが削除されたことでCADが軟調。USD/JPYは新規の材料に乏しいなか、米国時間午後に上昇し112前半へと水準を切り上げた。
- ・前日の米10年金利は2.518% (▲4.7bp) で引け。豪 C P I の低下、 i f o 指数の予想比下振れ等を 受けた海外金利低下に追随。欧州債市場はドイツ (▲0.012%、▲5.3bp)、フランス、イタリア、 スペインが何れも金利低下。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

